

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果(本郷小学校)

平均正答率

自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

	国語	算数・数学
本郷小	下回った	下回った
埼玉県	69	64
全国	67.7	63.4

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「している」「どちらかといえばしている」を合わせた値(単位 %)

	質問事項	本郷小	埼玉県	全国
生活習慣	朝食を毎日食べている	100	84.4	93.7
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	96.3	84.5	82.9
	毎日、同じくらいの時刻に起きている	96.3	92.3	91.6
学習習慣	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている	85.2	83.3	80.7
	学校の授業時間以外に、普段1日当たり1時間以上、勉強をする(学習塾や家庭教師、ICTを活用して学ぶ時間も含む)	51.8	58.5	54.6
	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強をする	48.1	50.8	48.6
	放課後や週末に、家で勉強や読書をして過ごすことが多い	55.6	50.2	49.3
教科への関心	国語の勉強は好きだ	74.	63	62
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	100	94	93.2
	算数・数学の勉強は好きだ	66.6	60.4	61
	算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	96.3	94.8	94.1
主体的・対話的な学び	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	85.1	85.4	81.9
	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた	74.	73.3	67.6
	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた	88.8	84	79.6
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができた	96.3	88.9	86.3
その他	自分には、よいところがあると思う	88.9	85.9	84.1
	将来の夢や目標を持っている	88.9	83.6	82.4
	人の役に立つ人間になりたいと思う	100	96.2	95.9
	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	88.9	84.3	83.5

【質問紙分析】

- ・学校での学習や生活習慣などは、平均を上回っているが、放課後や土、日曜日などの家庭学習の時間は、県平均より下回っている。「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」も下回っていることから、自主的に学習に向かおうとする態度の育成が課題だと考えられる。
- ・「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」と考える児童が100%という結果から、将来に対し、前向きで、学習を大切なことと捉えている児童が多いことがわかった。その気持ちを学習する習慣へとつないでいくことができれば、さらに学力向上に結び付くと考えられる。

全国の平均正答率と比較して大きく上回った問題○と課題のある問題●とその理由

【国語】

○1三 メモが交流場面でどのように役立ったのかを選択する問題

(理由) 出題の趣旨は「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる」であるが、提示されたメモが、図で表されており、視覚的に複数の材料を読み取ることができないと考えられる。普段から、視覚的に捉えるために、図を活用する活動を取り入れている結果だと考えられる。

○2一(2) メモの書き表し方において適切なものを選択する問題

(理由) 出題の趣旨は「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」であるが、問題のメモのようなウエービング図は、総合的な学習などで、よく用いていることから、関係の表し方が理解できていたと考えられる。

○2二 文章の空欄に入る内容を、メモを基にして書く問題

(理由) 出題の趣旨は「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」であるが、本校では、低学年から日記指導を行っていることから、身近な遊びについて相手に伝わるように書くことができたと考えられる。

●1二(2) 話し方の工夫として適切なものを選択する問題

(理由) 出題の趣旨は「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる」であるが、文章を注意して読むと、「クイズカードを提示した」という文があり、「実物を示した」という答えを選択できる。誤答が多いのは、文を丁寧に読んでいなかったり、「提示」や「引用」という言葉の意味を理解できていなかったりしたことが、考えられる。

●2一(1) 伝えたいことを明確にするための説明として適切なものを選択する問題

(理由) 出題の趣旨は「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる」であるが、誤答に「3」

が多いことから、「どちらも」というのが、共通点を指すことだと理解できていないことや伝えたいことを明確にするための説明の読み取りができていないことが考えられる。

● 2三（ア）文章中の「きょうぎ」を漢字で記述する問題

（理由）出題の趣旨は「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」であるが、「協議」「教義」や当て字などの誤答が多かったことから、文章をよく読まず、「きょうぎ」という言葉だけで、判断してしまったり、前後の文章から話の様子がイメージできなかつたりしていたことが考えられる。

【算数・数学】

○ 4（3）道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く問題

（理由）出題の趣旨は「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」であるが授業において、自力解決の時間を確保し、言葉や図を用いて考えを書く活動を行っている結果だと考える。

○ 5（1）円グラフから、割合を読み取って書く問題

（理由）出題の趣旨は「円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる」であるが算数の授業以外に社会科などの授業においても、資料の読み取り方を指導し、読み取る活動を行っている結果だと考えられる。

○ 5（2）示されたデータを読み取り、表に入る数を書く問題

（理由）出題の趣旨は「簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる」であるが既習の表やグラフの学習において、与えられている条件を手がかりに読み取る活動が行われ、練習問題を重ねた結果だと考えられる。

● 1（1）問題場面の数量の関係を捉え、折り紙の枚数を求める式を選ぶ問題

（理由）出題の趣旨は「問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる」であるが問題場面をイメージ化し、情報を整理できず、聞かれていることをしっかりと捉えられていない児童が多く見られた。文章の読み取り不足が多く見られた。

● 3（1）作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選ぶ問題

（理由）出題の趣旨は「直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる」であるが誤答として、「1」を選択している児童が見られることから、直方体の定義が正しく理解できておらず、1つの条件（平行であること）のみで、判断してしまっていることがわかる。

● 5（4）示された求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、予想日を書く問題

（理由）出題の趣旨は「示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる」であるが誤答を見ると、10

月○日の○に入れる数を「590」と書いたり、「3月18日」と書いたりしている児童も数名いることから、最終問題まで、集中が続かない様子が見られた。また、2つの情報を基にして考えるという手順があまり理解できていなかった。

課題への取組・改善策

【国語】

- ・言葉の意味理解が不十分であるため、国語の授業で意識的に指導したり、普段からわからない言葉の意味を調べる習慣づけを図ったりする。
- ・誤答をみると、文章を丁寧に読み取ったり、最後まで読んでいなかったりする児童も多いことから、本校で重点的に取り組んでいる読書活動や日記指導を引き続き行い、文章を読むことが苦手な児童への支援も工夫する。また、インプット・アウトプット活動をする中で、相手に伝わるように工夫して書いたり話したりする活動を取り入れる。

【算数・数学】

- ・問題場面のイメージ化や情報の整理ができるように実物や図、数直線を活用するような習慣づけを行っていく。
- ・自分の考えが相手に伝わるよう図や文で表し、対話によって深められるような活動を授業の中で取り入れる。
- ・基礎基本を定着させた上で、中位層上位層には、思考力判断力を養う応用的な問題に取り組ませたい。

【その他】

- ・質問紙からも読み取れるように、自主的、主体的に学習に向かうことが苦手な児童がいることから、今年度も引き続き、主体的な学びができるような授業を行い、家庭と協力して中間層の学力向上につなげる家庭学習の習慣づけを図っていききたい。
- ・粘り強さや最後まで頑張る態度の育成のため、指導者側の見届けや声かけを普段から心掛けたい。
- ・本調査を分析した結果を授業改善に活かせる研修を行っていききたい。